



## 河村美登里さん

かわむらみどり／昭和19年生／北九州市在住／旧姓：原田／小原区出身／主婦、俳誌「地平」同人、俳人協会会員、句集『始発駅』（本阿弥書店）

なげない明け暮れの中の幸せ  
—ふるさとながと・こんにちわ—

椿東風しんそこ山国育ちかな  
友人から長門へ旅したら心から親切にしてもらった。金子みすゞの海のあるところ。近松座に行ったら丁度良い広さと音響が良かった。蒲鉾や温泉の話など聞くと、その日はとても良い事があった様な気持ちになる。冒頭の句は私の句集『始発駅』より抜いたもので、長門の山々に囲まれて育った思いを述べてみたつもりである。

依山を離れ36年の月日が過ぎ、気付くと木の葉髪と共に海峡の町に根を下ろしたという感である。句集を編んで気付いた事に、いかに故里の事柄を自分でも分らず多く詠み込んでいたかということである。故里での事は、地下水の様に身に沁み込み、ど

こでの様な活動をしていても、しっかりと心の奥に棲みついているのである。

長門市は、幸い海や山、文化、産業とほどよく釣り合いのとれている町と思う。離れて住むと客観的に眺める事が出来、本当に良い所に生を享けたものだと心より感謝と誇りに思っている。その事を改めて真摯に受け止めさらなる前進を心に、同じ対馬海流の見える町より、長門市の皆さんにエールを送りたい。



▲昭和39年長門市での成人式  
後列左から2人目が河村さん

息子さん夫婦とお孫さん2人の5人家族。主に息子さんと2人で美容室を経営している。「店はほとんど息子に任せていますが、まだ私じゃないと言ってくださるお客さん多いらしいんですよ。」

美容師になるきっかけは、16歳の時だった。中国の奉天で美容室を営む知り合いのお師匠さんに呼ばれ中国に渡った。7年間修行して技術を身につけた。「自分もよく決心したと思うが、送り出してくれた親にも感謝しています。厳しかったけど今の私があるのはお師匠さんのおかげです」昭和31年に美容室を開業。依山で初めて電気パーマを導入した。「当時は忙しかったですよ。朝は4時から、炭団で湯

## 「心の健康」が第一

—達者です—



## 山本千恵子さん

やまもとちえこ／78歳／湯町区

を沸かしシャンブーしたりと。今、依山女歌舞伎のかつらを結わせていただいています。女優さんの役によって結い方も変わります。貴重な物なので気をつかいますが楽しくさせていたでいます。美容師という仕事が本当に好きなんです。」

モットーは「心の健康」。「腹を立てず心安らかに過ごしたい」といつも思っています。みんなが楽しい気持ちでいられることが一番です。」

